

バイオ炭公開セミナーのご案内

2024年5月21日

立命館大学日本バイオ炭研究センター

センター長 柴田晃

昨今、バイオ炭が少しずつ注目されてくる中で、異なる分野の方々がバイオ炭に興味をもたれて研究や事業に取り組まれております。これは今まで私達がもっていたのとは違う視点からバイオ炭の利活用を考えておられて、私達にもたいへん刺激になります。

それらの方々の中で、今回2人の講師を招いて、ご本人達の専門分野から見たバイオ炭の利活用の仕方について、その研究や現場の姿をお話ししていただくとともに、意見交換ができればと考えました。そこで、下記の要領で公開セミナーを開催することとしましたのでお知らせします。

記

公開セミナー(入場無料)「バイオ炭の新たな利活用を求めて」

主催：立命館大学日本バイオ炭研究センター／日本バイオ炭コンソーシアム

後援：日本炭化学会

日時：2024年7月10日(水) 15:30～17:30

場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス／B棟5階 B515+B516 研究会室(予定)

対面とZoomのハイブリッド形式(対面は35人程度)

※終了後、18:00～19:30にキャンパス敷地内のカフェで情報交換会の開催も予定しております。

(1人5,000円程度)

15:30—16:20 講演者1 **中安祐太**

東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教

「バイオ炭も入れた里山資源の活用と持続可能なコミュニティづくり」(仮題)

16:20—16:30 質疑応答

休憩

16:40—17:30 講演者2 **中久保豊彦**

大阪大学 大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻 准教授

「下水汚泥リサイクルの実状、汚泥の炭化に向けた課題と展望」(仮題)

17:30—17:40 質疑応答

終了

講師紹介



中安祐太

中安氏のベースは環境材料・材料プロセス研究者ですが、持続可能な社会の実現をご自身の軸に据え、宮城県の中山間地域に住まれて、豊かな里山資源をテクノロジーの力を使って上手に利用し、食料やエネルギーの地産地消と地域に持続可能なコミュニティを成立させる可能性を実践的に探求しています。その課題解決の研究を東北大学で行っており、その1つとして炭利用があります。

氏は東北大学学際科学フロンティア研究所に所属し、東北大学プロミネントリサーチフェロー、TI-FRIS フェローを兼任されるとともに、株式会社 百(もも)、株式会社 里山エンジニアリングを兼業されています。

受賞歴： 2023年11月 NOK Dream Journey 賞, JR 東日本 東北本部賞, 東北テックプランター2023(株式会社里山エンジニアリング)

2023年11月 Innovators Under 35 Japan 2023, Energy & Sustainability, MIT Technology Review Japan (中安祐太)

2023年10月 安藤ハザマ賞, DAIKEN 賞, オーディエンス賞, エコテックグランプリ 2023(株式会社里山エンジニアリング)

2021年9月 優秀発表賞(技術部門), 鉄含浸水熱炭化物を前駆体としたグラファイト状炭素の作製, 第19回木質炭化学会

他多数



中久保豊彦

中久保氏は下水処理場やごみ焼却施設を中心として循環型社会システムの構築と環境負荷・リスク評価管理に関して多岐にわたる分野を研究されています。脱炭素社会の構築に向け、下水処理場やごみ焼却施設は地域のエネルギー拠点へと転換することが求められており、下水汚泥のエネルギー活用システムの設計などに携わっておられ、その1つの方策として汚泥炭化も対象としておられます。

氏はお茶の水女子大学、基幹研究院・自然科学系の准教授を務められていましたが、昨年2023年4月から現職の大阪大学大学院、工学研究科・環境エネルギー工学専攻に移られました。

受賞歴： 2022年5月 廃棄物資源循環学会奨励賞- 廃棄物資源循環学会

2018年10月 環境システム論文奨励賞- 土木学会環境システム委員会

他多数